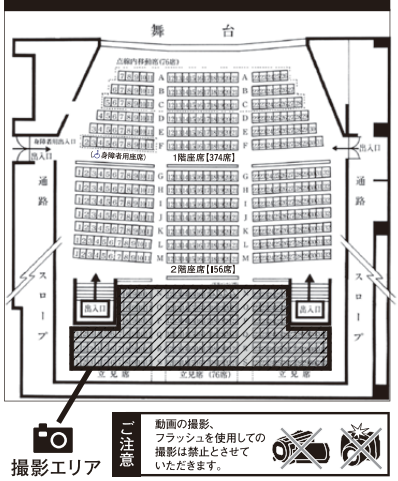
「広島神楽」定期公演へようこそ！

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。
当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。
ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
(1)座席での**飲食は出来ません**。ロビーをご利用下さい。
(2)上演中の立ち歩きや大声での私語など**他のお客様のご迷惑になる行為**はご遠慮下さい。
(3)お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で**危険**な場合がございます。**着席**での鑑賞をお願いします。
(4)撮影について
→写真撮影は右図の**撮影エリア**で行って下さい。
※ビデオカメラ・携帯電話等での**動画撮影は禁止**します。
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)

以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

撮影エリアについてのご案内



11 月 18 日のタイムスケジュール

出演：苅屋形神楽団（北広島町）
19:00～開演
19:05～第一幕『塵輪』
（およそ 40 分）
～幕間（休憩）～
20:00～第二幕『八岐大蛇』
（およそ 40 分）

20:45～記念撮影会
衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。本日の記念に是非ご参加下さい。
また、神楽団との交流もしていただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。
（舞台へは靴を脱いでお上がりください。）

※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

苅屋形神楽団（かりやがたかぐらだん）プロフィール ～山県郡北広島町～

苅屋形神楽団は広島県の北西部・北広島町の芸北地区に明治10年頃創設されました。
舞の形式は石見神楽邑智系を原型とした優雅で重厚な六調子舞が独自に変化し発展したものです。
現在団員は22名で、先人の遺産である旧来からの儀式舞・能舞の習得に日々精進し、技術の上達はもとより、神楽人としての精神修養にも努めています。

第一幕『塵輪』（じんりん）

人皇・第14代仲哀（ちゅうあい）天皇の御代、異国より日本征伐を企てて数万の軍勢が攻めてきました。
その中に塵輪という身に翼があり、黒雲に乗って虚空を自由に飛び回る神通自在の大将軍がおり、国々村里を荒らし、多くの人民を滅ぼしていました。しかし、我が国にはこの大悪鬼にかなう者がいませんでした。
そこで仲哀天皇自ら不思議な霊力のある十善万乗（じゅうぜんばんじょう）の神変不測の弓矢を持って、神通力を持ち戦術にも長けた鬼を退治されたという物語です。

【出演】

大太鼓	酒井　邦昭	帯中津彦命	河野　公彦
小太鼓	酒井　敏治	高　丸	槇原　和弘
手打鉦	河野　和夫	塵　輪	酒井　拓也
笛	河野　友見		

第二幕『八岐大蛇』（やまたのおろち）

出雲の国に暮らす足名椎（あしなづち）・手名椎（てなづち）老夫婦には八人の娘がいました。しかし年毎に一人またひとりと大蛇に飲み取られ、七人まで娘を失いました。そしていよいよ八人目の姫が飲み取られる季節となり、老夫婦と八人目の姫・奇稲田姫（くしいなだひめ）は嘆き悲しんでいました。そこへ高天原（たかまがはら）から舞い降りた須佐乃男命（すさのおのみこと）が通りかかり、その訳を聞きます。
命は、大蛇退治を決め、老夫婦に八塩折（やしおり）の毒酒を造らせ酒を入れた樽の後に姫を立たせます。やがて、どこからともなく大蛇が現れ、毒酒に映った姫の影を飲み干していきます。酔いの回るほどに暴れ狂い、しだいに酔い伏してしまいます。これを待ち構えていた命は、壮絶な戦いの末、大蛇を退治します。
大蛇の腹を切り裂くと、一本の刀が出てきます。これを天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ）と名づけ、天照大神（あまてらすおおみかみ）に捧げます。そしてめでたく奇稲田姫を妻とし、平和で豊かな出雲の里で暮らしていくという物語です。

【出演】

大太鼓	酒井　敏治	須佐之男命	酒井　裕二	大　蛇	槇原　伸二
小太鼓	谷本　庸子	足名椎	酒井　忠典	大　蛇	佐田　治信
手打鉦	河野　和夫	手名椎	山根　嘉治	大　蛇	槇原　和弘
笛	佐藤　福公	櫛名田姫	山崎　千絵	大　蛇	河野　公彦

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。